

モノハ較、廣シ、小枝葉ハ小形ナリ、苞葉ハ直立シ基脚ヨリ鞘狀ニ長ク披針形上部ニ鋸齒ヲ具フ子囊其他ハ未知

圖版說明

一、絲狀體ノ基部(廓大) 二、植物體(縮小) 三、莖葉(廓大) 四、葉ノ先端部(廓大) 五、葉ノ中央部(廓大) 六、絲狀體ノ先端部(廓大) 七、絲狀體(廓大) 八、葉ノ基脚外部(廓大) 九、葉ノ基脚内部(廓大) *Revue Bryologique*ニ據ル

○斷枝片葉 (其四十五)

牧野富太郎

●**たうていらん** 是レハらんノ名ヲ冒セドモ固ヨリ蘭ノ類デナクごまのはぐさ科ノるりとらのを屬宿根草デ我邦デハ寧ロ珍ラシイ者デアル、明治年間ニ始メテ之レヲ採集シタノハ梅村甚太郎君其人デ同君ハ明治三十四年八月三十一日ニ丹後國竹野郡網野町ノ海岸地デ採集セラレタガ今日デハ此邊一帶ノ地デ見ラレ私ハ昨年ノ末ニ但馬ノ久美濱附近デ之レヲ探ツタ、大正十五年ニハ朝比奈泰彦博士、緒方正資並ニ久内清孝ノ三君ガ之レヲ伯耆ノ松崎海岸デ採ラレタ(本誌第六卷第三號參照)今其採集地ヲ通覽シテ見ルト東ハ丹後カラ西ハ伯耆ニ至ル日本海ニ面セル海濱地ガ其産域デアルコトガ知レル、本種ハ飯沼慾齋著『草木圖說』草部卷ノ一ニ其圖說ガ出テ居ル所ヲ以テ見レバ同時代ニ既ニ知ラレテ居ツタ事ガ首肯セラル、ガ然シ其當時ニ始メテ邦産トシテ世ニ出タモノデアラウ、ソシテ此『草木圖說』ニ在ル其圖說ガ抑モ最初ノモノデアラウト思フ、時ニ安政三年デ今カラ七十四年前デアアル、たうていらんノ名ノ起リハ別ニ同書ニハ記シテナイガ是レハ多分洞庭蘭トシテ其名ヲ雅馴ニシタモノデハナイカト思フ、洞庭ハ支那ニ在ル著名ナ湖デ能ク詩ナドニ出テ居ル名所デアアル、本品ノ葉ハ特ニ白毛ニ被ハレテ白色ヲ呈スルカラ誰レガ觀テモ頗ル奇異ニ感ズル梢ニ穗ヲ成シテ美ナル紫花ヲ綴ルカラ尙更人ノ注目ヲ惹クニ足ルノデアアル

●薄荷護謨樹

明治十年十一月三十日發行ノ『洋々社談』第三十六號ニ

伊藤圭介氏ノ薄荷護謨樹ノ記事ガアル、今其文章ヲ讀ムト其レハ *Eucalyptus globulus* Labrll. ノ事デア
 ガ其レヲ此處ニ *E. resinifera* Smith. ニ充テアルノハ間違ッテ居ル、此 *E. globulus* Labrll. ハ此時分ニ始メ
 テ我邦ニ移入シ來ッタモノデ其當時東京ノ花戸デハ前記ノ如ク之レヲはくごむト云ツテ居ッタラシイ、然シ
 此名ハ一時デ消エテシマツテ有加利ノ名デ通用スル事トナッタ、此樹ニ就テハ當時ノ『農業雜誌』ニ書キ立ッ
 テ世ニ紹介シタモノデアアル、今日兵庫縣ノ神戸邊一帶ニ此樹ノ多イハ其時分ニ植エタモノカラ傳ハツテ居ル
 ノデアアル、伊豆熱海町海藏寺ノ庭ニ在ル一樹ハ明治十五年ニ栽エタ者トノ事デアアルガ今ハ其幹ノ周リガ地上五
 尺ノ處デ一丈二寸モアル大樹トナツテ居ル、*E. globulus* Labrll. ハ俗ニ Blue-Gum ト呼バレル、Peppermint
 Gum (薄荷ごむ) ト俗稱スルモノハ *E. amygdalina* Labrll. デアツテ是レハ其葉ニ薄荷ノ香ガアルカラ其名ヲ
 得タモノデアアル ●我日本ノなんばんぎせる遂ニ三種トナル なんばんぎせる屬 (*Aeginetia*) ノ代表者ハ
 卽チなんばんぎせる一名きせるさう一名おらんだぎせる一名たけうまさう一名みてぐら(伊豆八丈島)卽チ *Ae.*
indica L. デアツテ通常すゝきノ根ニ寄生スルモノデアアル、又さたうさびニ盛ンニ多數寄生スル事ガアツテ先
 年小笠原島デハ之レガ爲メ同植物ガ害ヲ被ッタ、又往々めうがヘモ寄生スルノデめうがのはなノ名ガアル、一
 度埼玉縣デジヤがいもニ少許寄生シタ事ガアッタガ之レハ異例ニ屬シ滅多ニハ見ラレナイ、此品ハ黃色ノ花莖
 ト萼トニ紫條ガアリ花冠ノ舷部ハ餘リ正開シナイ、學者ニ由ツテハ之レヲ『萬葉集』ニ在ル寄草歌ノ「道の邊
 のをばなが下の思ひ草今更さらに何にか念もはん」ト云フ歌ノおもひぐさト斷ジテ居ル、すゝきノ下デ頸ヲ傾
 ゲテ思案シテ居ル様ノ花ヲ見レバ其レヲ此歌ノ思ひ草トスルノハ尤モノ事ダトうなづかレル、第二種ハおほぎ
 せるさう一名おほなんばんぎせる一名やまなんばんぎせるデ學名ハ *Ae. japonica* Smith. ex Zucc. デアル、此
 品ハ山地ニ生ジすげ屬 (*Garex*) 一種(多分ひかげすげ)ノ根ニ寄生スル、花莖ハ通常丈夫デ太ク萼ハ淡紫色デ條
 文ナク先端ハ尖ツテ居ナイ、花冠ハ紫色デ其舷部ハ正開シ裂片ノ邊緣ニ細鈍齒ガアル、第三種ハひめなんばん

ぎせるデ此レハ最近ニ出タ新種デ其形チガ一番小イ、萼ニハ紫采ガアリ且花モ紫色デアル、くろひなすげ (*Carex gifuensis* FRANCH.) ノ根ニ寄生シ山麓ノ地ニ生ズル、即チ昭和三年ニ今栃木縣師範學校ニ在勤セル教諭關本平八君ノ發見セルモノニ係リ私ハ同君ヲ紀念シ *Ae. Sekimotoana* MAKINO. ノ新學名ヲ本誌第六卷第十號デ發表シテ置イタ、更ニ別ニ第四種ガアルヤウダ、若シモ研究ノ結果其レガ新種デアッタナラバ、私ハ其學名ヲ *Ae. Kimurai* MAKINO. ト命ジ該品ノ發見者理學士木村有香君ヲ記念シタイト思ッテ居ル ●我邦産ノはまら

つぼも三種トナル

はまらつぼ (Orbanche coerulea *Scroph. var. typica* G. Beck.) ハ從來カラ知ラレタ海濱砂場ノ寄生植物デ其寄主ハかはらよもぎデアル、先輩之レヲ支那ノ列當ニ充テ來リ居レドモ誤リデ列當ハ決

シテはまらつぼ屬ノモノデハ斷ジテ無イ故ニ此科ヲ列當科ト書クノハ止メネバナラナイ、我邦デハ永イ間本屬ノモノハ此はまらつぼバカリ世ニ知ラレテ居タガ私ハ其第二種ト第三種トヲ見付ケテ之レニ命名シ發表シタ即チ其第二種ハ體上ニ餘リ毛ヲ帶ビナイをかうつぼ山地ニ生ジをとこよもぎノ根ニ寄生シ學名ヲ *O. nipponica* MAKINO. ト稱スル又其第三種ハよもぎノ根ニ寄生シテ居ルノデよもぎうつぼト新稱シ其新學名ヲ *O. japonensis* MAKINO. トシタ、其花冠ノ筒ガ瘠セ長イカラ直ニ他ト區別ガ出來ル、信州ニ産スルガ但シ稀品デアルト思フ、今一ツ問題ノモノガアルガ之レハ精査ノ上發表スル ●辛キ蓼 我邦ニ生ズル蓼即チたてノ辛味アルモノ

ハ唯一種ノミデ其他ノ者ニハ絶テ此レガナイ、其レ故辛辣ノ味アルモノハ皆同種異品デ斷ジテ別種ニ屬スルモノデハナイ即チ其本家ハやなぎたて (*Polygonum Hydropiper* L.) デ他ハ之レヲ母種トシテ之レカラ變リ出タモノデ彼ノあゐたで、むらさきあゐたで、むらさきたで、ほそばたで、あざぶたで、いとたでナドガ是レデア

ル、偶マ田間ニ在テやなぎたでノ越冬シタモノハ其莖横斜シ春時早ク花ヲ開クモノガアルガ是レハ固ヨリ別種ノモノデハナイ又やなぎたでガ水底ニ沈在シテ生ズルトキハ水底ニ在テ能ク冬ヲ越エ從テ年中見ラレ多年生本

トナルコトガアル、此ノ如キモノ其梢ガ水上ニ出ヅレバ好時期ニハ花ガ咲ク之レヲかはたでトモみづたでトモ

稱へ多ク清流ノ小川ニ之レヲ見出スコトハ興味アル一事實デアル ●小枝ノ墜ツルけんぼなし、酒屋ノ嫌フけんぼなし なつめ、こばんのき、ぎよりう等ハ晩秋孟冬ノ間ニ其小枝ノ墜ツル著シイ例デアルガけんぼなし

(枳椇、Hovenia dulcis THUNB.) モ亦同様デアル、けんぼなしノ果實ヲ着ケタル小枝ハ其果實成熟並ニ果梗甘熟(果梗肥大シ軟質トナツテ甘クナリ敢テ他ニ類ノナイ状態トナル此甘キ部ヲ小兒食スル)セバ秋風ニ乗ジテ先ヅ我が小枝上ノ葉(アル者ハ)ヲ脱シ然ル後高キ樹梢ノ枝上ヲ離レ自體ヲ地上ニ墜スノデアル、此墜ツル小枝ハ上記ノなつめ、こばんのき等ト同ジク其年ニ成長シタ部分デアル、然シけんぼなしハなつめノ様ニ短枝ハ作ラナイ、此けんぼなしノ實ヲバ往時ヨリ釀酒場ニ入レルコトヲ忌ミ嫌フ風ガアル其レハ此物ヲ酒屋ニ入ルルト酒ガ變敗スルト云フノデアルガ果シテ實際ニ然ルヤ否ヤ私ハ之レヲ實驗シタ事ハナイガ私ノ宅ハ原トハ酒屋デアッタノデ當時杜氏ナドガ上ノ様ナ事ヲ言ツテ居タノヲ覺エテ居ル、此様ニけんぼなしヲ酒屋ガ惡ム様ニナツタノハ元ト支那ノ説カラ由來シタモノデアラウト思フ、支那ノ昔ノ本草家ナル蘇頌ハ「子ハ枝端ニ着ク之レヲ噉フニ甘美ニシテ飴ノ如シハ九月ニ熟ス江南特ニ之レヲ美トシ之レヲ木蜜ト謂フ能ク酒味ヲ敗ル若シ其木ヲ以テ柱トスルトキハ則チ屋中ノ酒皆薄シ」ト曰ヒ孟詵ハ「昔南人アリ舍ヲ修スルニ此木ヲ用テ誤テ一片ヲ落シテ酒甕ノ中ニ入ル酒化シテ水トナレリ」ト曰ヒ又李時珍ハ「本草ニハ止ダ木能ク酒ヲ敗ルヲ言フ而シテ丹溪朱氏ハ酒病ヲ治スルニ往々其實ヲ用ウ其功當ニ亦同ジカルベシ、屋外ニ此木アレバ屋内ニ酒ヲ釀スニ多クハ佳ナラズ」ト曰ツテ居ル、然シ此等ノ人々ノ言フ所ガ本當デアツテ此けんぼなしニ實際此功能ガアルヤウナラバ誰カ一ツ之レヲ研究シテ醉醒シノ特効藥デモ拵ヘ大ニ儲ケテ見ル氣ハナイカナ、けんぼなしハ人ニヨレバ玄圃梨カラノ名デアルト唱フレドモ私ノ考ヘデハ是レハ或ヘてんぼなし(越前デハ斯ク呼ブ)ノ意味デハナカラウカト思フ即チなしハ肉ガ蜜ノ様ニ甘イカラ梨ト名ケてんぼハ手棒デ其形チガ癩病人ノ手ノ様ナカラサウ謂ッタデハナイカト想像スルガ支那ニモ亦、癩漢指頭ト云フ名ガアル